

番屋川支流イの沢 (仮称) 左俣, 右俣

1990年7月29日

L5



出合まで車で送ってもらい、番屋川本流を渡って、イの沢 (仮称)に入る。コケむした暗い沢である。倒木があったりして、歩きづらい所もある。左より小沢が2本入り、やがて二俣。沢は急に開けて明るくなるが、倒木がびっしり沢を埋めている。

左俣はすぐに水がなくなり、まもなくヤブとなる。右俣めざしてヤブをこぎ、右俣を二俣まで下る。右俣も平凡であった。

二俣からは右岸に残っていた林道跡をたどって、出合まで戻る。

(記・)

[タイム] 出合(7:50)→二俣(8:40, 9:00)→左俣終了(9:10)
→右俣下降開始(9:15)→二俣・下降終了(9:30)

番屋川支流口の沢 (仮称) 右俣

1990年7月29日

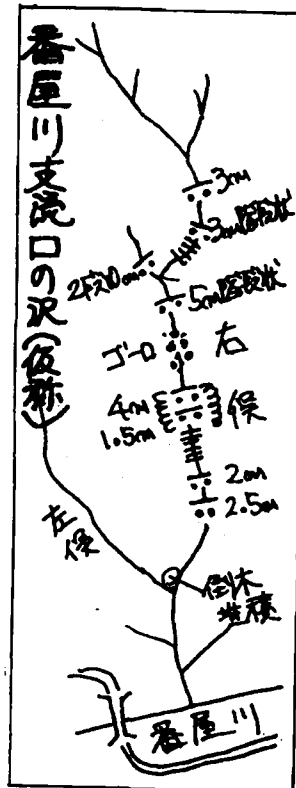
L4

今日は橋内さんと組んで、番屋川支流口の沢(仮称)を遊行する。7:55林道わきに車を止めて、遊行開始。出だしは暗い沢であったが、まもなく広い川原状となる。8:15二俣。左俣に入る西・菱沼パーティと別れて右俣に入る。まずは大量の倒木の堆積。そのあと沢は急に狭くなり、3mの滝が現われる。滝の右岸が崩壊して、岩がたまっている。そのあと2mの滝、ナメと現われ、先に期待をもたせる。

8:50 2m, 4m, 5m 階段状滝と連続して出てきた。

9:00 二俣。左沢は10m 2段滝をかけ、右沢はゴルジュ状の中に階段状の3m滝である。水量は左沢の方が多いが、沢床の低い右沢へとルートをとる。

このあとは3mの滝がひとつ出てきただけで、水が濁



れたあとは縄状の窪地をひたすら稜線に向けて歩くだけとなった。10:45ヤブの中でほぼ稜線に立ち、現在地を確認して登ってきた沢を下降する。

[タイム] 出合(7:55)→左俣出合(8:15)→左沢出合(9:00)→稜線(10:45)

香屋川支流口の沢(仮称)左俣 1990年7月29日

7:55右俣を遡行予定の橋内・鈴木パーティと一緒に遡行開始。出合は暗く先に期待をもたせたが、平凡なままで二俣。ここで橋内・鈴木パーティと別れる。二俣には右俣から押し出されてきた土砂と流木が堆積していた。

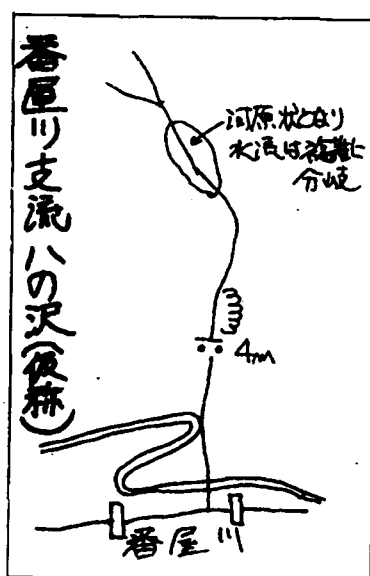
左俣は20分程で水がなくなり、平凡なままでヤブの中の窪みにすぎなくなってしまった。8:40遡行終了とし、右岸斜面を登って稜線を目指す。稜線までは1時間30分余。伐採後の猛烈なヤブこぎとなった。

[タイム] 遡行開始(7:55)→二俣(8:15)→遡行終了(8:40)→尾根(10:15)

香屋川支流ハの沢(仮称) 1990年7月29日

L

尾根上で小休止のあとハの沢(仮称)めざし下降開始。伐採後の猛烈なヤブをこ



ぎながら急斜面を下る。50分の下りで沢に出る。降り立った所は広い河原状となり、冷たい流れが複雑に分岐しながら流れていた。前日林道からこの沢を偵察した宍戸君の話では、林道から見える位置に10m程の滝があるという。遡行してきた沢の平凡さ、そのあとのヤブこぎの苦勞を補ってくれる滝を期待して下降を開始する。

広い河原を過ぎると沢は急に暗くなり、傾斜を増す。そして左岸に岸壁が現われる。滝はまだかと先を急ぐ。やがて大岩が重なりあって4m程の落差をつくり、その先に待望の滝である。しかし、落差は4m程。宍戸君の言っていた10mの滝とは